今月の一品

越北の鴻都 長善館
―高橋竹之介の漢詩―

私塾長善館の門人の一人、高橋竹之介の漢詩を紹介します。

鶴觜で丁々と巖石を穿つ
西渓は萬頃の田に成就す
哂ふに堪えたり数郡の蒲原の力
塚山を長谷の川にすること及ばず

明治30年11月25日渡部を開鑿する場面を試作して、一首を題して治水会員諸君に呈す。

高橋竹之介は、1842(天保13)年に長岡市中之島で生まれ、21歳で長善館に入門して初代館主・鈴木文臺に学びました。その後郷里を離れて学問を深め尊王攘夷を志し、北越戊辰戦争では、居之隊を結成して新政府軍の先導役をつとめました。1881(明治14)年には長岡に「誠意塾」を開設して多くの子弟を教育し、20年間に600人を世に送り出しました。

竹之介は、1896(明治29)年・1897(明治30)年に起きた信濃川の大洪水の惨状に心を痛め、「北越治水策」を山縣有朋・松方正義に建白しました。建白書のあとに作詩されたこの詩からは、大河津分水の開削は当時の蒲原郡の人たちの力だけでは不可能で、国の力が必要であると治水会員をはじめ多くの人たちに説いた高橋竹之介の強い信念がうかがわれます。

長善館史料館
☎0256・93・5400
月曜日休館（祝日の場合は翌日休館）
■入館料
大人100円、高校生以下50円 ※団体割引あり

1922-2022 100 大河津分水通水100周年

大河津分水コラム

次の100年に向けて
登録有形文化財の洗堰

大河津分水には、100年前の大河津分水通水の姿を今に感じることができる場所が幾つかあります。その1つが平成12（2000）年まで稼働していた旧洗堰です。通水当初の旧洗堰は、堰の上部から木製の板を堰柱の溝に沿って落とし込むことにより信濃川に流す水量をコントロールしており、水が板を乗り越えて流れる姿が、堰を洗うように流れるようであったことから「洗堰」と呼ばれました。昭和57（1982）年の洪水では堰の一部から漏水したりしながらも、78年間にわたり信濃川に安定的に水を流し、また、燕市などを洪水から守ってくれました。

その功績をたたえて、今から20年前の平成14（2002）年2月15日に登録有形文化財に登録されました。旧洗堰の右岸側に建立された石碑には文化財の登録証が埋め込まれています。

通水から100年、文化財登録から20年の旧洗堰。遠くから眺めると灰色のコンクリートの印象が強いですが、間近で見る堰柱には長い間信濃川の水を流し続けてきた跡が刻まれており、なぜか温かみすら感じさせてくれます。

地域おこし協力隊の奮闘日記 vol.47

初めまして。昨年10月から地域おこし協力隊に着任しました久保充穂です。

東京から燕市に移住しました。前職ではデザイナーと職人や企業の間で進行を調整する仕事に携わっていました。主に担当するのは「燕三条 工場の祭典」ですが、実際の現場で人や技術に触れることで感じること、ものを作り出すだけではない燕の技術や人の魅力を広く発信できるよう頑張ります。

これからこのコラムを通して、イベントの紹介はもちろん、日ごろの出来事やいろいろな発見を伝えていきたいと思います。燕市の皆さん、どうぞよろしくお願いします！

他の隊員と「燕三条 工場の祭典」会場での1枚
（左から2番目が久保充穂隊員）

燕市地域おこし協力隊
久保　充穂

●「広報つばめ」だけでは物足りないあなたへお送りする「Web版カメラびゅう」
https://www.city.tsubame.niigata.jp/keikaku/koho/2_1/index.html

camera view

●市内の出来事や、頑張っている皆さんの姿を紹介するコーナーです。

やったぜ日本一!! 東京ヤクルトスワローズの塩見選手・山崎選手が来燕！

●12月25日　スポーツランド燕（写真左）・26日　文化会館（写真右）

2021年シーズン、見事日本一に輝いた東京ヤクルトスワローズから塩見泰隆選手と山崎晃大朗選手が燕市へ。「つばめ野球クリニック」では小学生に熱の入った指導を行い、翌日の「トークショー」では優勝の瞬間の想いから普段聞けない裏話を披露してくれました。チームを日本一に導いた２人の来燕に大盛り上がりの２日間になりました。

天神講のお菓子で受験生を応援！

●1月9日　道の駅国上

「天神講のお菓子を食べると、勉強ができるようになる」という言い伝えにあやかり、受験生を応援しようと一足早くお菓子を販売。春が待ち遠しいですね。

バドミントン世界女王の奥原選手も熱血指導

●1月15日　燕市体育センター

バドミントンの五輪メダリストで、世界選手権優勝の経験を持つ奥原希望さんが来燕。参加した小・中学生は丁寧なアドバイスに耳を傾け、実践していました。

80歳の新成人!?

●1月10日　吉田老人センター

還暦から数えて20年目、満80歳の人を対象に吉田地区で「第27回 熟年成人式」が開催されました。41人が参加し、笑顔があふれる素晴らしい式典となりました。

燕市初披露「キャディスプーン展」

●1月16日　産業史料館

茶葉をすくう匙として英国の貴族階級を中心に人気を博した「キャディスプーン」。東京在中のコレクターが収集したコレクションより220点を展示しました。